

研究要旨

病院外に設置された相談支援センターにおいて、1) 医療福祉従事者からの相談の実態の把握、2) 患者の希望に応じて治療を受けている病院へ相談の解決に向けたフィードバックの実施可能性について検討を行った。

医療従事者からの相談はのべ相談件数の5から6%であった。相談内容は療養場所に関する相談、社会的問題に関する相談が多かった。従来の患者・家族からの相談分類に分類されない相談が多く、今後相談内容の質的分析が必要である。

患者からの相談に関する病院へのフィードバックの実施は、事前に病院と調整を行えば可能であった。また相談内容によれば、病院へのフィードバックで簡単に解決できる問題があった

A. 研究目的

相談支援センターの整備は、がん診療連携拠点病院の指定要件一つである。相談支援センターでは院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備することが求められている。国立がん研究センター東病院では、2008年8月より柏市医師会と共同で病院外に設置した『がん患者・家族総合支援センター』を設置し、がん患者・家族ならび地域の医療福祉従事者に対する相談支援に取り組んできた。この活動の中で、国立がん研究センター東病院で治療を受けている患者に関しては必要に応じて、患者・家族が希望すれば、病院に相談支援センター等にフィードバックを行っていた。病院にフィードバックを行うことにより、問題が早く解決できたケースもあり、地域の病院にも同様のフィードバックをかけることができることを目的に、地域の3ヶ所の病院を訪問し、相談部門とその責任者と調整を行い2012年4月よりフィードバックを開始した。

本研究の目的は、地域の医療福祉従事者からの相談内容の分析すること、患者・家族からの相談に対して病院にフィードバックの実施可能性を明らかにすることである。

B. 研究方法

『がん患者・家族相談支援センター』の相談記録データベースから集計を行った。2008年8月1日から2012年7月31日までの1年毎ののべ相談件数、医療福祉従事者からの

相談件数及び医療福祉従事者からの相談について主相談内容の分布の集計を行った。

2012年4月1日から2013年2月28日までに地域の医療機関にフィードバックを行った5ケースに関しては、相談内容の概要の記述を行った。

（倫理面への配慮）

本研究では相談内容を分析したが、相談開始時に「相談内容を統計的に分析することがある」との了解を得ている。以上より本研究に関して倫理面の問題はない。

C. 研究結果

2008年8月1日から2008年12月31日、2009年1月1日から2009年12月31日、2010年1月1日から2010年12月31日、2011年1月1日から2011年12月31日、2012年1月1日から2012年12月31日におけるのべ相談件数はそれぞれ、384件、819件、772件、540件、625件であった。

また、同期間の医療福祉従事者からの相談件数はそれぞれ、8件(2.1%)、46件(5.6%)、46件(6.0%)、26件(4.8%)、33件(5.3%)であった。

2008年8月1日から2013年7月31日の医療福祉従事者からの159件であった。この相談の内容に関しては、表1に示す。大分類としてはその他が70件で最多であったが、療養場所に関する相談36件、社会的な問題に関する相談36件、受診受療に関する相談6件であった。

次に、地域の医療機関にフィードバックを行った5ケースについて概要を示す。

ケース1.

患者より相談、A病院にて皮膚がんで手術が必要、手術すれば治ると言われた。医師が書いた説明の用紙を読んでも意味がわからない。急に病気が判明して手術と言われて頭が真っ白になった。

A病院の相談支援センターに相談に応じてもらえるよう連絡することが可能であることを患者に伝えると、希望された。

A病院相談支援センター相談員から患者に電話連絡し、相談。病状、手術等について補足説明を行うことで、患者も納得した。患者は院内の相談支援センターは医師の依頼がなければ利用できないと思っていたことが判明した。

ケース2.

B病院にて膀胱がんで治療を受けている患者より相談。今までTUR-BTを繰り返し受けてきたが、再発を繰り返してき、TUR-BTが困難であり、放射線治療を主治医より勧められた。ただし、主治医はいつもPCを見ながら一方的に説明をするだけで、患者から聞きたいことがあっても質問できる雰囲気ではない。

主治医及び放射線治療医から詳しい説明を聞けるよう、B病院の相談支援センターへの連絡を提案したところ、患者は希望された。

B病院相談支援センター相談員が、患者と主治医との面談を設定し、主治医より患者に説明してもらい、患者は納得して治療に同意された。

ケース3.

C病院で悪性リンパ腫を治療中の患者の家族より相談。患者が毎日「こんな辛い状態は嫌だ。死にたい」といって落ち込んでいる。主治医から睡眠薬を投与されているが、寝たち起きたりで落ち着かない。家族としても、患者のつらそうな状態を見ていると辛い。心理士に話を聞いてもらったが、患者は「話をしていると余計に気分が落ち込む」といって以来、心理士との面談も拒否している。どうしたら良いか。

家族にC病院の相談支援センターに連絡を提案したところ希望された。

C病院の相談支援センター相談員と家族が面談し、まずは家族と精神科医師の面談を設定した。

ケース4.

患者の家族から相談。患者は胃がんの治療をD病院で受けている。困ったのはベッドのことである。患者は起き上がり立ち上がり、体力がしていて難しい。市でベッドを借りられないか。

D病院の相談支援センターに相談が可能であることを伝えたところ希望した。

D病院の相談支援センター相談に連絡し、家族の面談時間を予約。

患者の家族が相談支援センターの相談員と面談し、介護保険利用について話し合っ、介護保険の申請を行った。

ケース5.

患者の妻から相談、患者は悪性リンパしゅの治療をE病院に入試し受けている。患者が看護師に激しい口調で怒る。この対応で困っている。以前から妻に対して暴力的になることがある。その後、繰り返し同じような内容で相談あり。

患者の妻にE病院の相談支援センターでの相談を提案したところ希望した。

E病院の相談支援センターの相談員に繰り返し相談しているが、当センターにも繰り返し相談に来ている。

ケース1, 2は、治療に関する理解の問題であり、治療を受ける病院にフィードバックを行うことで、相談員または主治医から説明が追加され、患者の納得に至ったケースである。このようなケースに関しては、病院へのフィードバックは有効である。

ケース3は、患者の精神症状に関する相談であり、患者が治療している病院にフィードバックすることなしに、患者に対応することが困難な事例である。

ケース4は、介護保険の申請という比較的簡単な対応ではあり、相談内容を病院にフィードバックを行うことで簡単に解決可能である。

最後、ケース5に関しては、対応に苦慮しているケースであり、病院内、病院外の相談支援センターが連携を取りながら今後も対応していく必要がある。

D. 考察

病院外に設置した相談支援センターにおいては、医療福祉従事者からの相談を受けるとともに相談内容に関するフィードバックを患者が希望する場合には行なってきた。

医療福祉従事者から相談はのべ相談件数の5~6%であった。その相談内容は、我々

が準備した相談分類が本来患者・家族からの相談を分類するための分類カテゴリーであったため、その他というカテゴリーが最多であった。今後相談内容の記述の分析を行い、医療福祉従事者からの相談のカテゴリー分類を作成制することが必要である。今回の研究においては、療養場所の選択、社会的に問題に関する相談が多かった。今後相談内容の質的分析が必要である。

患者からの相談を具体的な解決に結びつけるフィードバックを病院に行ってみた。事前に病院と調整を行うことで、フィードバックを行うことは可能であった。1年の試験運用で5件の相談に関してフィードバックを行った。5件と少数のケースであったが、フィードバックにより簡単に問題解決されたケースもあり、今後フィードバックを行える対象病院を増やすと共に、フィードバックという提案を積極的に勧め、ケースを集積したい。

E. 結論

病院外に設置した相談支援センターにおいて相談者の5から6%は医療福祉従事者であった。その相談は療養場所の選択、社会的な問題に関する内容が多かった。患者に関する相談について、患者が希望した場合に治療を受けている病院にフィードバックを行うことを試験的運用した。件数は少なかったが、患者からの相談を治療を受けている病院にフィードバックすることで、簡単に問題を解決することができる可能性が示唆された。

F. 研究発表

1. 論文発表

(研究の刊行に関する一覧表に記載)

2. 学会発表

- 1.木下寛也. PAL Meet the Professor 緩和医療. 第50回日本癌治療学会学術集会. 2012.10, 横浜
- 2.秋月伸哉, 森田達也, 木下寛也, 他. OPTIM 介入前後での緩和ケアチーム活動の変化. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6, 神戸
- 3.秋月伸哉, 森田達也, 木下寛也, 他. OPTIM 介入前後での緩和ケアチーム活動の変化. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6, 神戸
- 4.沖崎歩, 木下寛也. シンポジウム9 緩和医療のブレイクスルー～行動する薬剤師にむけて～ 病院から在宅まで 縦断

的なサポートでより安全で有効な緩和ケアを. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6, 神戸

5.三浦智史, 木下寛也, 他. パネルディスカッション4 がんを家族にどう伝えどう支えるか 「5歳の娘を主語にして話し合う」ことで、がん終末期の親が娘への病状告知を行うに至ったケース. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6, 神戸

6.古賀友之, 木下寛也. シンポジウム1 緩和ケアチームが精神心理的ケアを提供する工夫 在宅医療において精神腫瘍科医に期待すること. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6, 神戸

7.林優美, 木下寛也, 他. 緩和ケア病棟転棟前後にせん妄と診断された患者の後方視的検討. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6, 神戸

G. 知的財産権の出願・登録状況

- 1.特許取得
なし
- 2.実用新案登録
なし
- 3.その他
なし

Ⅲ.研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍 (外国語)

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kudou N, Taniguchi A, Sugimoto K, <u>Esumi H</u> , et.al.	Synthesis and antitumor evaluation of arctigenin derivatives based on antiausterity strategy.	Eur J Med Chem			in press
Owada S, Shimoda Y, Tsuchihara K, <u>Esumi H</u> .	Critical role of H2O2 generated by NOX4 during cellular response under glucose deprivation.	Plos One 2012	8(3)		in press
Kami K, Fujimori T, <u>Esumi H</u> , et.al.	Metabolomic profiling of lung and prostate tumor tissues by capillary electrophoresis time-of-flight mass spectrometry.	Metabolomics	(9)	444-53	2012
Yamagata Y, Aikou S, Fukushima T, <u>Esumi H</u> , et.al.	Loss of HGF activator inhibits foveolar hyperplasia induced by oxyntic atrophy without altering gastrin levels.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	303(11)	G1254-61	2012
Sakai C, Tomitsuka E, <u>Esumi H</u> , et.al.	Mitochondrial fumarate reductase as a target of chemotherapy: From parasites to cancer cells.	Biochim Biophys Acta	1820(5)	643-51	2012
Inazuka F, Sugiyama N, <u>Esumi H</u> , et.al.	Muscle-specific knock-out of NUA family SNF1-like kinase 1 (NUAK1) prevents high-fat diet-induced glucose intolerance.	J Biol Chem	287(20)	16379-89	2012
Magolan J, Adams N B, Onozuka H, <u>Esumi H</u> , et.al.	Synthesis and evaluation of anticancer natural product analogues based on angelmarin: targeting the tolerance towards nutrient deprivation.	ChemMedChem.	7(5)	766-70	2012
Tomitsuka E, Kita K, <u>Esumi H</u> .	An anticancer agent, pyrvinium pamoate inhibits the NADH-fumarate reductase system--a unique mitochondrial energy metabolism in tumor microenvironments.	J Biochem.	152(2)	171-83	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Kawamoto Y, Tsuchihara K, <u>Esumi H</u> , et.al.	KRAS mutations in primary tumours and post-FOLFOX metastatic lesions in cases of colorectal cancer.	Br J Cancer	107(2)	340-4	2012
Kawashima M, <u>Hayashi R</u> , Tahara M, Arahira S, Miyazaki M, Sakuraba M, Zenda S, Ogino T	Prospective trial of chemotherapy-enhanced accelerated radiotherapy for larynx preservation in patients with intermediate-volume hypopharyngeal cancer.	Head and Neck	34(10)	1363-1368	2012
Kano S, Homma A, <u>Hayashi R</u> , Kawabata K, Yoshino K, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K et.al.	Salvage surgery for recurrent oropharyngeal cancer after chemoradiotherapy	Int J Clin Oncol			Epub ahead of print
Shinozaki T, <u>Hayashi R</u> , Ebihara M, Miyazaki M, Tomioka T	Mucosal Defect Repair with a polyglycolic Acid Sheet	JJCO	43(1)	33-36	2012
Minashi K, Kojima T, Ito M, Satake H, Yajima Y, Yoda Y, Ikematsu H, Oono Y, <u>Hayashi R</u> , Onozawa M, Ohtsu A et.al.	Treatment Strategy for Superficial Pharyngeal Squamous Cell Carcinoma Synchronously Combined with Esophageal Cancer	Oncology	84(1)	57-64	2012
<u>Imoto S</u> , Isaka H, Sakemura N, Ito H, Imi K, Miyamoto K	Paradigm shift in axilla surgery for breast cancer patients treated with sentinel node biopsy	Breast Cancer	19	104-109	2012
<u>Imoto S</u> , Kamma H, Tvedskov TF, Kroman N, Jensen MB, Audisio RA, Cserni G et.al.	International Multicenter Tool to Predict the Risk of Nonsentinel Node Metastases in Breast Cancer	J Natl Cancer Inst (Epub ahead of print)	04	1888-1896	2012
Nishizawa Y, Kobayashi A, <u>Saito N</u> , Nagai K, Sugito M, Ito M, Nishizawa Y.	Surgical management of small bowel metastases from primary carcinoma of the lung	Surg Today	42(3)	233-237	2012
Nakajima K, Takahashi S, <u>Saito N</u> , Kotaka M, Konishi M, Gotohda N, Kato Y, Kinoshita T.	Predictive Factors for Anastomotic Leakage after Simultaneous Resection of Synchronous Colorectal Liver Metastasis	J Gastrointest Surg	16(4)	821-827	2012
Murata S, Koga Y, Moriya Y, Akasu T, Fujita S, Yamoto S, Kakugawa Y, Ohtake Y, <u>Saito N</u> , Matsumura Y.	Application of miRNA expression analysis on exfoliated colonocytes for diagnosis of colorectal cancer	Gastrointestinal Cancer: Targets and Therapy	2	11-18	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Koda T, Nakajima K, Minagawa N, Nishizawa Y, Kobayashi A, Sugito M, <u>Saito N.</u> et.al.	Postoperative chylous ascites after colorectal cancer surgery	Surg Today	42	724-728	2012
Nishizawa Y, Fujii S, <u>Saito N.</u> , Ito M, Nakajima K, Ochiai A, Sugito M, Kobayashi A, Nishizawa Y.	Differences in tissue degeneration between preoperative chemotherapy and preoperative chemoradiotherapy for colorectal cancer	Int J Colorectal Dis	27	1047-1053	2012
Fujita S, Akasu T, Mizusawa J, <u>Saito N.</u> , Kinugasa Y, Kanemitsu Y, Ohue M, Fujii S, Shiozawa M, Yamaguchi T, et.al.	Postoperative morbidity and mortality after mesorectal excision with and without lateral lymph node dissection for clinical stage II or stage III lower rectal cancer (JCOG0212): results from a multicentre, randomised controlled, non-inferiority trial	Lancet Oncol	13(6)	616-621	2012
Nishizawa Y, <u>Saito N.</u> , Fujiib S, Ito M, Sugito M. Kobayashi A, Nishizawa Y.	Association between Anal Function and Therapeutic Effect after Preoperative Chemoradiotherapy followed by Intersphincteric Resection	Dig Surg	29	439-445	2012
Nakajima K, Sugito M, Nishizawa Y, Ito M, Kobayashi A, Nishizawa Y, Suzuki T, Tanaka T, Etsunaga T, <u>Saito N.</u>	Rectoseminal vesicle fistula as a rare complication after low anterior resection: a report of three cases.	Surg Today	43	574-579	2012
Kunito S, Tkakura S, Nagata C, Saito M, Yanaihara N, Yamada K, Okamoto A, <u>Sasaki H.</u> , Oshiai K, Tanaka T.	Long-term survival in patients with clear cell adenocarcinoma of ovary treated with irinotecan hydrochloride plus cisplatin therapy as first-line chemotherapy	J. Obstet. Gynaecol. Res	38 : 12	1367-75	2012
Ikeda M, <u>Arai Y.</u> , Park SJ, et.al.	Prospective study of transcatheter arterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma: An Asian cooperative study between Japan and Korea.	J Vasc Interv Radiol	24	490-500	2013
Hashimoto R, Sofue K, <u>Arai Y.</u> , et.al.	Successful balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for bleeding duodenal varices using cyanoacrylate.	World J Gastroenterol	19	951-4	2013

研究成果の刊行に関する一覧表

Sato Y, Watanabe H, <u>Arai Y</u> , et.al.	Tumor response evaluation criteria for HCC (hepatocellular carcinoma) treated using TACE (transcatheter arterial chemoembolization): RECIST (response evaluation criteria in solid tumors) version 1.1 and mRECIST (modified RECIST): JIVROSG-0602.	J Med Case Reports	118	16-22	2013
Sofue K, Takeuchi Y, Arai Y, et.al.	Life-threatening cerebral edema caused by acute occlusion of a superior vena cava stent.	Cardiovasc Intervent Radiol	36	272-5	2013
Sato Y, Inaba Y, <u>Arai Y</u> , et.al.	Malignant inferior vena cava syndrome and congestive hepatic failure treated by venous stent placement.	J Vasc Interv Radiol	23	1377-80	2012
Osuga K, <u>Arai Y</u> , Anai H, et.al.	Phase I/II multicenter study of transarterial chemoembolization with a cisplatin fine powder and porous gelatin particles for unresectable hepatocellular carcinoma: Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group Study 0401.	J Vasc Interv Radiol	23	1278-85	2012
<u>Arai Y</u> , Ohtsu A, Sato Y, et.al.	Phase I/II study of radiologic hepatic arterial infusion of fluorouracil plus systemic irinotecan for unresectable hepatic metastases from colorectal cancer: Japan Clinical Oncology Group Trial 0208-DI.	J Vasc Interv Radiol	23	1261-7	2012
<u>Arai Y</u>	Clinical trials of interventional oncology.	Int J Clin Oncol	17	301-5	2012
<u>Ikeda M</u> , Ioka T, Ito Y, Yonemoto N, Nagase M, Yamao K, Miyakawa H, Ishii H, Furuse J, Sato K, Sato T, Okusaka T. A	Multicenter Phase II Trial of S-1 With Concurrent Radiation Therapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer.	Int J Radiat Oncol Biol Phys	85(1)	163-9	2013
Shimada K, Esaki M, <u>Ikeda M</u> , Mitsunaga S, Kinoshita T, Konishi M, Takahashi S, Okusaka T,et.al.	Treatment outcome for systemic chemotherapy for recurrent pancreatic cancer after postoperative adjuvant chemotherapy.	Pancreatology	12(5)	428-33	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Terashima T, Morizane C, Hiraoka N, Tsuda H, Tamura T, Shimada Y, Kaneko S, Kushima R, Ueno H, Kondo S, <u>Ikeda M</u> , Okusaka T.	Comparison of Chemotherapeutic Treatment Outcomes of Advanced Extrapulmonary Neuroendocrine Carcinomas and Advanced Small-Cell Lung Carcinoma.	Neuroendocrinology	96(4)	324-32	2012
Ito T, Okusaka T, <u>Ikeda M</u> , Igarashi H, Morizane C, Nakachi K, Tajima T, Kasuga A, Fujita Y, Furuse J.	Everolimus for Advanced Pancreatic Neuroendocrine Tumours: A Subgroup Analysis Evaluating Japanese Patients in the RADIANT-3 Trial.	Jpn J Clin Oncol	42(10)	903-11	2012
Okusaka T, Ueno H, <u>Ikeda M</u> , Takezako Y, Morizane C.	Phase I study of TAC-101, an oral synthetic retinoid, in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma.	Cancer Sci	103(8)	1524-30	2012
Imoto A, Mitsunaga S, Inagaki M, Aoyagi K, Sasaki H, <u>Ikeda M</u> , Nakachi K, Higuchi K, Ochiai A.	Neural invasion induces cachexia via astrocytic activation of neural route in pancreatic cancer.	Int J Cancer	131(12)	2795-807	2012
Morizane C, Okusaka T, Ueno H, Kondo S, <u>Ikeda M</u> , Furuse J, Shinichi O, Nakachi K, Mitsunaga S, Kojima Y, Suzuki E, Ueno M, Yamaguchi T.	Phase I/II study of gemcitabine as a fixed dose rate infusion and S-1 combination therapy (FGS) in gemcitabine-refractory pancreatic cancer patients.	Cancer Chemother Pharmacol	69(4)	957-64	2012
Yukawa Y, <u>Muto M</u> , et.al.	Elimination of esophageal multiple precancerous lesions by chemotherapy: potential chemoprevention of metachronous multiple cancer development after curative treatment.	Esophagus	9	203-209	2012
Miyamoto S, Mashimo Y, <u>Muto M</u> , et.al.	Cerebral air embolism caused by chemoradiotherapy for esophageal cancer.	J Clin Oncol	30(25)	e237-e238	2012
Yukawa Y, <u>Muto M</u> , et.al.	Combination of ADH1B*2/ALDH2*2 polymorphisms alters acetaldehyde-derived DNA damage in the blood of Japanese alcoholics.	Cancer Sci	103(9)	1651-1655	2012
Horimatsu T, <u>Muto M</u> , et.al.	Tissue damage of the canine normal esophagus by photoactivation with taraporfin sodium (Laserphyrin): A preclinical study.	PLoS ONE	7(6)	e38308	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

Yano T, <u>Muto M</u> , et.al.	Phase I study of photodynamic therapy using talaporfin sodium and diode laser for local failure after chemoradiotherapy for esophageal cancer.	Radiation Oncol	7(1)	113	2012
Hori K, Miyamoto S, <u>Muto M</u> , et.al.	Stability of Acetaldehyde-derived DNA adduct in vitro.	Biochem and Biophys Res Com	423(4)	642-646	2012
<u>Muto M</u> , et.al.	Usefulness of endoscopic radial incision and cutting method for refractory esophagogastric anastomotic stricture (with video).	Gastrointest Endosc	75(5)	965-972	2012
Oyama T, Uramoto H, <u>Muto M</u> , et.al.	Cytochrome P450 in non-small cell lung cancer related to exogenous chemical metabolism.	Front Biosci	S4	1539-1546	2012
Tomonori Yano, <u>Manabu Muto</u> , et.al.	Photodynamic therapy as salvage treatment for local failure after chemoradiotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma: a phase II study.	Int J Cancer	131(5)	1228-1234	2012
<u>Zenda S</u> , Ishii S, Ichihashi T, et.al.	A Dermatitis Control Program (DeCoP) for head and neck cancer patients receiving radiotherapy: a prospective phase II study.	International Journal of Clinical Oncology			Epub ahead of print
Hojo H, <u>Zenda S</u> , Sasaki K. et.al.	Impact of early radiological response evaluation on radiotherapeutic outcomes in the patients with nasal cavity and paranasal sinus malignancies.	J Radiat Res.	53(5)	704-9	2012
Okano S, Tahara M, <u>Zenda S</u> , et.al.	Induction chemotherapy with docetaxel, cisplatin and S-1 followed by proton beam therapy concurrent with cisplatin in patients with T4b nasal and sinonasal malignancies.	Jpn J Clin Oncol.	42(8)	691-6	2012
Satake H, Yoshino T, <u>Zenda S</u> , et.al.	Early clinical outcomes of anal squamous cell carcinoma treated with concurrent chemoradiotherapy with 5-Fluorouracil plus mitomycin C in Japanese patients: experience at a single institution.	Jpn J Clin Oncol.	42(9)	861-4	2012
Mikoshiha N, <u>Miyashita M</u> , Sakai T, Tateishi R, Koike K.	Depressive symptoms after treatment in hepatocellular carcinoma survivors: prevalence, determinants and impact on health-related quality of life.	Psycho-Oncology			in submission

研究成果の刊行に関する一覧表

Asai M, Shimizu K, Ogawa A, Akechi T, <u>Kinoshita H</u> , Uchitomi Y, et.al.	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients.	Psychooncology	20(12)	995-1001	2012
Asai M, <u>Kinoshita H</u> Uchitomi Y, et.al.	Psychological states and coping strategies after bereavement among spouses of cancer patients: a quantitative study in Japan.	Support Care Cancer	20(12)	3189-203	2012

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>林 隆一</u>	高齢者に対する外科治療—頭頸部—	日気食会報	65(5)	362-397	2012
<u>井本 滋</u>	乳癌センチネルリンパ節生検	外科	74	699-703	2012
<u>井本 滋</u>	センチネルリンパ節転移陽性乳癌における腋窩治療	腫瘍内科	10	122-125	2012
<u>井本 滋</u>	乳癌治療の現状と展望	杏林医学会雑誌	43	145-150	2013
伊藤雅昭、 <u>齋藤典男</u> 、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、	腹腔鏡下ISR	消化管外科	35(1)	67-79	2012
小林昭広、伊藤雅昭、西澤雄介、小林昭広、杉藤正典、 <u>齋藤典男</u> 、	腹腔鏡下大腸癌手術に伴う偶発症の検討	日本腹部救急医学会雑誌	32(1)	37-42	2012
神山篤史、 <u>齋藤典男</u> 、杉藤正典、伊藤雅昭、小林昭広、西澤雄介、	進行直腸癌における肛門温存手術	手術	66(2)	179-184	2012
伊藤雅昭、 <u>齋藤典男</u> 、杉藤正典、小林昭広、西澤雄介、	腹腔鏡下ISR	手術	66(6)	901-908	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

菅野伸洋、伊藤雅昭、 中嶋健太郎、櫻庭 実、 杉藤正典、小林昭広、 西澤雄介、錦織英知、 神山篤史、齋藤典男	超低位前方切除あるいはISR術 後の吻合部狭窄	消化器外科	35(11)	1647- 1654	2012
野口幸子、佐藤佳世、 武隈桂子、高橋一彰、 森本恵爾、小曾根浩一、 田部宏、小竹譲、高 野浩邦、佐々木寛 他	巨大卵巣腫瘍に対して当院で 施行している小切開No Leak 法の検討	千葉産科婦人科学 会雑誌	6 : 1	10-14	2012
池田公史、光永修一、 清水怜、大野泉、高橋 秀明、奥山浩之、桑原 明子、奥坂拓志	進行肝細胞癌に対するソラフ ェニブの現状と今後の展望	日本消化器病学会 雑誌	109(8)	1346-54	2012
全田貞幹	頭頸部扁平上皮癌に対する新 しい治療戦略 放射線治療の 新しいモダリティー	JOHNS	28(8)	1185- 1189	2012
森 美知子、栗原美穂 、岡田教子、市川智里 、上杉英生、市橋富子 、久部洋子、矢ヶ崎香 小松浩子 他	上部消化管術後障害に伴うが ん患者の症状・徴候 —文献レビューによる発症状 況の分析—	Palliative Care Rese arch			in press
森田達也、木下寛也、 他	地域対象の緩和ケアプログラ ムによる医療福祉従事者の自 覚する変化: OPTIM-study	Palliat Care Res	7(1)	121-135	2012
森田達也、木下寛也、 他	地域緩和ケアプログラムに参 加した医療福祉従事者が地域 連携のために同職種・他職種に 勧めること	Palliat Care Res	7(1)	163-171	2012
木下寛也、森田達也、 他	がん専門病院が地域緩和ケア の向上のために取り組んでいる ことと課題	癌と化学療法	39(10)	1527- 1532	2012
木澤義之、木下寛也、 森田達也、他	地域で統一した緩和ケアマニ ュアル・パンフレット・評価シ ートの評価: OPTIM-study	Palliat Care Res	7(2)	172-184	2012
森田達也、木下寛也、 他	地域緩和ケアプログラムに参 加した医療福祉従事者が最も 大きいと体験すること: OPTIM-study	Palliat Care Res	7(2)	209-217	2012
木下寛也、森田達也、 他	がん専門病院緩和ケア病棟の 運営方針が地域の自宅がん死 亡率に及ぼす影響	Palliat Care Res	7(2)	348-353	2012
森田達也、木下寛也、 他	異なる算出方法による地域で の専門緩和ケアサービス利用 数の比較	Palliat Care Res	7(2)	374-381	2012
森田達也、木下寛也、 他	患者所持型情報共有ツール 「わたしのカルテ」の評価: O PTIM-study	Palliat Care Res	7(2)	382-388	2012

研究成果の刊行に関する一覧表

東陽一郎、 <u>木下寛也</u>	新しい局面を迎えた肺癌診療 《肺癌診療にまつわるトータルサポート 治療とケア》緩和ケアの実際	内科	110(5)	771-774	2012
-------------------	---	----	--------	---------	------

